

2021年2月15日

岐阜大学医学部附属病院

株式会社 HIROTSU バイオサイエンス

線虫がん検査『N-NOSE』に関する 共同臨床研究開始のご報告

岐阜大学医学部附属病院（所在地：岐阜県岐阜市 病院長：吉田和弘）と株式会社 HIROTSU バイオサイエンス（本社所在地：東京都千代田区、代表取締役：広津崇亮／以下ヒロツバイオ社）は、線虫がん検査「N-NOSE（エヌノーズ）」の共同臨床研究を開始しましたので、お知らせいたします。

本研究は、岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻 腫瘍制御学講座 腫瘍外科学分野（教授：吉田和弘／以下岐阜大学腫瘍外科）とヒロツバイオ社が、固形がん（食道・胃・大腸・膵臓・乳）の治療における「N-NOSE」判定の有用性について検討するものです。

岐阜大学腫瘍外科は、食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝臓・膵臓を中心とした消化器癌と乳癌の外科手術のみならず、化学療法を含めた癌の集学的治療を行っており、臨床試験の積極的な展開も行っています。このたび、新しいがんのスクリーニング検査としての有用性が期待されているヒロツバイオ社の「N-NOSE」を用いた、まったく新しいがんの治療効果判定能力を検討する臨床研究を開始します。

ヒロツバイオ社は、少量の尿から全身網羅的にがんのリスクを調べるがん検査「N-NOSE」を2020年1月に実用化しました。当検査は、線虫の優れた嗅覚を利用し、簡便・高精度・安価という利点があるため、まず初めに受けるがん検査に適しています。がんは、早期発見・早期治療することができれば9割以上が助かると言われているにも関わらず、日本のがん検診受診率は対象者の50%未満に留まっており、これは諸外国に比べても非常に低く問題視されています。ヒロツバイオ社は、「N-NOSE」によってがんのリスク判定ができる世の中をつくることで、一般の方のがんに対する意識を高め、ひいてはがんの早期発見・早期治療に繋げることを目指しています。将来的にはがん検診の一端を担えるようになってくれることを期待したいです。

また近年、外科、化学、放射線療法の進歩は、がんの集学的治療の進歩に大きく寄与していますが、治療効果の評価は重要です。迅速性・正確性・経済性・非侵襲性を兼ね備えた検査法は今後の医療には不可欠と考えられます。今回の岐阜大学とヒロツバイオ社との共同研究では、こうした集学的がん治療における効果判定を患者さんの負担をできるだけ少なく、かつ有効に行うためのモダリティの開発を目標としたいと考えています。

今後、両者は「N-NOSE」がスクリーニング検査の枠を超え、実臨床における重要な検査法として確立されることを期待し、本研究に取り組んでまいります。



* 「N-NOSE」は株式会社 HIROTSU バイオサイエンスの登録商標です。

【本件に関する問い合わせ先】

岐阜大学医学部附属病院 総務課
〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸 1 番 1
E-mail : hkoho@gifu-u.ac.jp

株式会社 HIROTSU バイオサイエンス 広報室
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1 ニューオータニガーデンコート 22F
E-mail : info@hbio.jp